

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

| | |
|---------|------------------|
| 上位の施策名称 | 施策Ⅲ-4-1 多様な自然の保全 |
|---------|------------------|

1. 事務事業の目的・概要

| | | | |
|----------|--------------|------|--------------|
| 事務事業担当課長 | 森林整備課長 前島 和弘 | 電話番号 | 0852-22-5173 |
|----------|--------------|------|--------------|

| | | | |
|---------|--|---|--|
| 事務事業の名称 | 森林病害虫等防除事業 | | |
| 目的 | (1) 対象 | マツ林（県民共有の財産） | |
| | (2) 意図 | マツ林の中でも山地災害防止機能、防風・防砂機能、景観維持機能等について高い機能を有するマツ林の保全を図るため、薬剤散布、被害木の伐倒処理、感染源となるマツ林での樹種転換を行い、被害の蔓延を防ぐ。 | |
| 事業概要 | 市町村が市町村森林整備計画に基づき設定した守るべきマツ林の保全のために行う、薬剤散布等による予防、被害木伐倒による駆除等に対し県は助成する。 | | |

2. 成果参考指標

| (1) 成果参考指標 | 指標名 | 守るべき松林での被害木処理率（93%以上） | 年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 単位 |
|------------|------|-----------------------|------|-----------------|-------|-------|-------|-------|----|
| | | | 式・定義 | 処理量/年間被害発生量（材積） | 目標値 | 9.90 | 42.00 | 45.00 | |
| | 達成率 | | | 45.20 | 48.40 | 54.70 | | % | |
| 指標名 | 式・定義 | | 年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 単位 |
| | | | 目標値 | | 0.00 | 0.00 | | | |
| | 実績値 | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | | | |
| | 達成率 | | | 0.00 | 0.00 | | | % | |

3. 事業費

| | 26年度実績 | 27年度計画 |
|-------------|--------|--------|
| 事業費(b) (千円) | 67,089 | 58,140 |
| うち一般財源(千円) | 28,177 | 20,338 |

4. 改善策の実施状況

| | |
|---------------------|------------------------|
| 前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況 | ②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む） |
|---------------------|------------------------|

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

防除対策として、予防措置と駆除措置を組み合わせ実施した。予防措置は、健全な松を守ることを目的に、健全木への薬剤の空中散布と樹幹注入を実施し、駆除措置としては、翌年度の被害発生を抑制することを目的に、当年度枯死木の薬剤処理による伐倒駆除と破砕による特別伐倒駆除を実施した。また、被害木の除去による森林の健全化を図った。
平成26年度の島根県全体での松くい虫被害量は50km³と対前年比88%となった。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

継続的な防除対策の実施により、県全体の被害量は減少傾向にある。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

守るべき松林での被害発生量に対して被害木処理量が低迷している。

②困っている状況が発生している「原因」

平成21年度以降の松くい虫防除空中散布の中止により十分な予防措置が行えず、松くい虫被害量が増加した出雲市の被害木処理率が低迷し、目標を下回る原因となっている。

③原因を解消するための「課題」

空中散布に替わる予防措置として樹幹注入を実施しているが、予算的・地理的に制約があり、守るべき松林全域での防除対策は困難である。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

守るべき松林においては、重要な区域を絞り、森林病害虫等防除法に基づく予防措置、駆除措置を相互に組み合わせ、継続的に防除対策を実施する必要がある。また、感染源となっている松林を伐採し、樹種転換による被害拡大防止対策により森林の健全化を推進する。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）